



平素は、百五銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

このたび、当行に対するご理解を一層深めていただくため、ディスクロージャー誌「Hyakugo Report (情報編) 2018」を作成いたしました。

当行では、2016年4月から中期経営計画『「Next COMPASS 140」～今こそ、磐石。次の未来のステージへ～』に取り組んでおり、地域の皆さまとともに発展していくことをめざし、さまざまな取組みを展開しております。

2017年度の主な取組み

中期経営計画の2年目を迎えた2017年度におきましては、地域金融の円滑化および地域創生に向け、金融仲介機能とコンサルティング機能の発揮に努め、お客さまや地域社会との一層の関係強化を図ってまいりました。

地域創生への取組みといたしましては、内閣府および三重県内の地方公共団体とともに、三重県内の公共サービスについて官民が連携するPPP/PFI事業の活性化を図ることを目的として、2017年11月に「みえ公民連携共創プラットフォーム」を設立いたしました。

商品・サービス面では、私募債の発行企業から受け取る手数料の一部をもとに、発行企業が指定する教育機関などに書籍や備品などを寄贈する百五寄付型私募債「夢のちから」を多くのお客さまにご利用いただき、お客さまとともに社会貢献活動にも取り組んでおります。

店舗につきましては、2017年9月に愛知県内20か店目の店舗として一宮支店を、2018年6月に21か店目の店舗として守山支店を開設いたしました。

働き方改革への取組みといたしましては、柔軟で選択肢

の多い職場環境を構築し、多様な働き方へ対応することを目的として、2018年1月にタブレット端末を活用した在宅勤務の試行を開始いたしました。

そのほか、企業が持続的に発展していくためには、従業員とその家族が心身ともに健康であることが重要であると考え、2017年9月に「百五銀行 健康宣言」を制定いたしました。こうした取組みが認められ、2018年2月には、経済産業省および日本健康会議から、優良な健康経営に取り組んでいる法人として「健康経営優良法人2018 (大規模法人部門) ～ホワイト500～」に認定されました。

当行は、2018年11月に創立140周年を迎えます。これもひとえに株主の皆さまをはじめお客さまのあたたかいご支援、ご愛顧の賜物であると深く感謝しております。今後とも皆さまのご信頼にお応えし、地域社会と当行の発展のため、全役職員が一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月
取締役頭取 **伊藤 歳 恭**

中期経営計画

2016年4月～
2019年3月

「Next COMPASS 140」

～今こそ、磐石。次の未来のステージへ～

■ 基本的な取組姿勢

- 限られた時間で成果を出す
- 収益機会を徹底的に追求する
- 地域とともに成長する

■ 計数計画(2018年度)

- 総預金平残 (譲渡性預金含む) 5兆1,900億円以上
- 総貸出金平残 3兆1,500億円以上
- 投資信託未残 (百五銀行・百五証券の合計) 3,000億円以上
- 当期純利益 65億円以上
- ROE (株主資本ベース) 2.7%以上

■ 中期経営計画の全体像

